

氏名	飯岡由紀子	部署	研究開発センター	職名	教授
研究分野	臨床看護学、がん看護学、看護教育、Women's Health、慢性期看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	聖路加看護大学看護学部看護学科、聖路加看護大学看護学研究科博士前期課程、聖路加看護大学看護学研究科博士後期課程				
経歴	兵庫県立看護大学、聖路加看護大学、東京女子医科大学看護学部				
所属学会（役職）	日本看護科学学会（代議員）、日本がん看護学会（代議員）、聖路加看護学会（理事）、日本女性医学学会（幹事）、日本女性心身医学会（幹事）、日本緩和医療学会、日本乳癌学会、日本看護学教育学会、母性衛生学会、精神保健看護学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	成人看護学概論 改訂第5版	共著	あり	南江堂、157-160		編集：林直子、鈴木久美、酒井郁子 林直子、酒井郁子、平石典子、山田緑、清水準一、吉田絵理子、清水嘉与子、島園進、鈴木久美、山田雅子、井出成美、佐野元洋、森優紀、片岡弥恵子、實崎美奈、 <u>飯岡由紀子</u> 、青木美紀子、清水誉子、野崎真奈美、佐藤まゆみ、廣岡佳代、国府浩子、森菊子、片岡純、佐藤直美、藤田佐和、石垣和子、笠谷美保、富永真己	2025年3月
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Mental health and quality of life in patients with premenstrual exacerbation: a cross-sectional study in Japan	共著	あり		Journal of Obstetrics and Gynaecology : 44:1, 2378440, DOI: 10.1080/01443615.2024.2378440	Mariko Ogawa, <u>Yukiko Iioka</u> , Kiyoshi Takamatsu	2024年7月
2	更年期障害評価尺度（Menopause Rating Scale）日本語版の作成と内容妥当性の検証	共著	あり		日本女性医学学会誌 vol314号、622-627	小川真里子、 <u>飯岡由紀子</u> 、高松潔	2024年7月
3	がん看護外来に対する医師の認識	共著	あり		がん看護 29巻6号、690-697	峯川美弥子、鈴木香織里、小林礼実、 <u>飯岡由紀子</u>	2024年11月
4	Anxiety and Depression in Japanese Patients with Genitourinary Syndrome of Menopause	共著	あり		International Urogynecology Journal, 36, 189–196 doi.org/10.1007/s00192-024-05996-w	Mariko Ogawa、 <u>Yukiko Iioka</u> 、Kiyoshi Takamatsu	2024年11月

(3) 学会発表					
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	精神科看護師performanceの概念分析	共同	第34回日本精神保健看護学会第34回学術集会・総会	○小川千恵子、 <u>飯岡由紀子</u> 、森田牧子、秋山美紀、江口のぞみ、木村諭志、抱井洋介	2024年6月
2	リフレクションマッププログラム（RMP：答えは自分の体験の中にある）は臨床でどのように活用できるか	共同	第29回日本緩和医療学会・日本サイコオンコロジー学会合同大会	○ <u>飯岡由紀子</u> 、渡邊直美、高山裕子、田代真理、木原円子、廣田千穂、久保田まりえ	2024年6月
3	多職種の専門性を引き出すチームビルディング チーム医療・多職種連携を促進するコーディネート能力とは 研究的取り組みから	単	第29回日本緩和医療学会・日本サイコオンコロジー学会合同大会	○ <u>飯岡由紀子</u>	2024年6月
4	看護職を対象としたリフレクションマッププログラム（RMP：答えは自分の体験の中にある）を臨床で活用するメリット	共同	第28回日本看護管理学会学術集会	○ <u>飯岡由紀子</u> 、渡邊直美、高山裕子、田代真理、木原円子、廣田千穂、久保田まりえ	2024年8月
5	リフレクションマッププログラム（RMP：答えは自分の体験の中にある）におけるリフレクションの効果	共同	第44回日本看護科学学会学術集会	○ <u>飯岡由紀子</u> 、遠藤まりえ	2024年12月
6	看護職の調整力向上プログラムの実行可能性と効果の検討：パイロットスタディ	共同	第44回日本看護科学学会学術集会	○ <u>飯岡 由紀子</u> 、杉本 知子、辻 恵子、大場良子、西村 宣子、渡邊 恵、廣田 千穂	2024年12月
7	リフレクションマッププログラム（RMP：答えは自分の体験の中にある）はがん看護にどのように活用できるか	共同	第39回日本がん看護学会学術集会	○ <u>飯岡由紀子</u> 、渡邊直美、高山裕子、田代真理、木原円子、廣田千穂、久保田まりえ	2025年2月
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	更年期指導士教材開発 「意思決定支援とセルフケア支援」	単著	日本女性心身医学会	○ <u>飯岡由紀子</u>	2024年7月
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	受託研究	看護系大学的女子学生の月経前症状と健康関連習慣・ヘルスリテラシーとの関連		研究代表者	2024年6月～2025年6月
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	がん看護学概論	○	8	がん看護領域において基盤となる理論・概念について理解を深めることを目標とした。多様な書籍や文献を用いて分析的かつ批判的に検討できるようにした。	
2	がん病態生理学	○	2	様々ながんの病態生理について系統的に学ぶ。更に、様々ながんの診断と治療についても系統的に学び、アセスメントや看護に役立てる方略について考える。	
3	看護研究	○	9	看護の向上や発展をはかるために必要な看護研究の方法に関する基礎的知識・技術を理解し、看護学における研究の役割や研究プロセス、研究成果の臨床への適応について理解する。	
4	看護学演習（がん看護学）	○	15	がん看護領域における研究課題を明らかにし、研究計画を立案するために必要な知識・技術を修得する。	
5	看護倫理	○	8	保健医療福祉分野において、看護の実践・研究・教育を探究するために必須となる理論的基盤について学術的に考察する。	

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	がん看護学演習Ⅱ	○	30	終末期がん患者と家族を対象に疼痛をはじめとした症状へのマネジメントや症状緩和技術を学ぶ。困難事例の問題解決に向けたコミュニケーション方法や倫理調整、切れ目のない緩和ケアを提供するための地域リソースの活用方法について探求する。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	がん実践看護実習Ⅰ	○	学外実習：2週間	がん医療の連携・協働のあり方を検討するため、訪問看護ステーションと大学病院の地域連携部署の両側面から理解を深めるようにした。
2	がん実践看護実習Ⅱ	○	学外実習：4週間	がん治療方針の決定と治療プロセスを理解し、ケアとキュアを融合した医療を判断し提供する能力を修得できること目標とした。実習指導体制を整備し、がん看護CNSの指導により目標が達成できるようにした。
3	がん実践看護実習Ⅲ	○	学外実習：4週間	がん看護CNSの6つの役割について、がん看護CNSの指導のもと役割を遂行することを目標とした。組織分析をふまえ、主体的に役割を遂行できるよう指導者と連携しながら実習を展開した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文	2024年4月～2025年3月	主指導（指導教員） 8名	副指導（指導補助教員） 名
2	博士論文	2024年4月～2025年3月	主指導（指導教員） 2名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	慶應義塾大学 非常勤講師	2024年10月	助産師専攻学生が、更年期医療とケアの理解を深める。	
2	上智大学 非常勤講師	2024年5月～6月	助産師専攻科学生が、更年期医療とケアの理解を深める。	
3	東京医療保健大学 大学院非常勤講師	2024年4月～5月	看護学研究科大学院生の看護研究と研究手法の理解を深める。	
4	聖路加国際大学 大学院非常勤講師	2024年5月	母性看護CNSコースの院生に、看護カウンセリングの実践について理解を深める。	
5	聖路加国際大学 大学院非常勤講師	2024年11月	大学院ウィメンズヘルス専攻学生に、更年期医療とケアの理解を深める。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	講演会	獨協医科大学埼玉医療センター	看護研究研修会	2024年7月
2	FD研修会	国立看護大学校	教育上の調整が必要な学生の支援を考えよう-組織的支援を形づくるために-	2024年7月
3	日本緩和医療学会 Web抄読会	日本緩和医療学会	「多職種連携におけるコーディネート力尺度（MCAS）の開発-がん医療に携わる医療専門職を対象とした信頼性と妥当性の検討-」	2024年7月
4	FD研修会	東京保健医療大学千葉看護学部	臨地実習における合理的配慮・教育上の調整が必要な学生の理解と支援	2024年10月
5	講演会	一般社団法人C&F	TRUE COLORS 入門編	2024年12月
6	研修会	埼玉県立がんセンター	質的研究 実践編 ーインタビューに焦点をあててー	2025年2月
7	FD研修会	国立看護大学校	臨地実習における学生への支援（教育上の調整）を考えよう	2025年3月

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	日本看護科学学会	和文誌編集委員会	2021年8月～現在
2	日本がん看護学会	編集委員会	2021年4月～現在
3	日本女性医学学会	リエゾン委員会、編集委員会、専門医審査委員会	2021年4月～現在
4	日本女性心身医学会	利益相反委員会、渉外・広報委員会	2021年6月～現在
5	日本看護学教育学会	研究推進・研究助成委員会	2021年6月～現在
6	聖路加看護学会	広報委員長	2024年6月～現在
7	日本女性医学学会 HRTガイドライン2024年度版	評価委員	2024年7月～現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容 期間
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究推進委員会	2024年4月～2025年3月
2	全学的委員会及びセンター業務等	ハラスメント相談員	2024年4月～2025年3月
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	Reflection-Map（リフレクションマップ）商標登録	2023-128069	2024年10月
8. 特記事項			
1	該当なし		